

心の復興に向かって④ 森の長城プロジェクトその二

森の長城プロジェクトの課題である「①植樹地の確保」とは、各沿岸自治体が作成する都市復興計画に鎮守の森をモデルとした緑化が盛り込まれない限り、事業を進めることができないといふことです。当財団では、少なくとも半年に一度は各沿岸自治体を訪問し、さうした候補地がないか自治体担当者らと情報交換と折衝を重ねてゐます。

東日本大震災から四年が経過しました。これまでは生活再建が第一でしたが、自分た

ちが住まなくなつた海岸線をどうしようかといふ考へが、やうやく生まれ始めた地域がいくつもあり、今後は植樹場所が拡大する可能性がります。当財団では、海岸最前線の防潮林だけでなく、大小の規模に拘らず、公園、住宅等の嵩上げ盛土の法面、施設の外周などの植樹でも、また数年の植樹計画であつても住民の要望にできるだけ応へられるやうな方法で苗木の提供を

したいと考へてゐます。②「資金の確保」とは、苗木を一本植樹するために、約千円の経費がかかるといふこと。一回の植樹祭で数万本の苗木を使用しますので、新聞やラヂオなどでも広く募金を呼びかけてゐます。

高橋 知明

こもれび

◇ ◇
そして「③ボランティア人員の確保」。昨年五月に開催した宮城県岩沼市での植樹祭では、七万本を約七千人の方々が植樹しました。一人当たり十本程度植樹作業をする

また植樹祭の当日だけでなく、数日前からの準備作業にも人員を必要としてゐます。苗木や稲ワラを参加人数に応じて各植樹ブロックに仕分け配置するなどの体力仕事です。幸ひにして活動を継続してきたせい、少しづつ御協力戴ける方々が増えつつあり、神社関係の皆様にも準備作業から御協力戴くこともあります。

◇ ◇
今後ますますな地域（とくに交通の利便性が良くない地域など）で活動を展開していく関係で、さらに多くの方々の御協力を必要としてゐます。



たかはし・ともあき

公益財団法人 瓦礫を活かす 森の長城プロジェクト事務局

先月、福島県南相馬市原町区萱浜にて、今年最初の植樹祭を開催。植樹本数は二万本、約二千九百人の方々が参加してくれました。この地域は、平成三十年に全国植樹祭が開催されることとなり、その前になる程度植樹し、お越しになる皆様に生長の様子も御覧戴きたいと考へてゐます。

五月三十日には岩沼市「千年希望の丘」植樹祭（約四万本）、七月四日には福島県相馬市「相馬光陽サッカー場」の外周植樹（約六千本）も予定。当財団は今後も、東北復興の一助となるやう努力してまいりますので、引き続き皆様の御支援御協力をお願いいたします。

次回以降は、岩手県陸前高田市と宮城県岩沼市の事例を基に、復興事業の現実に触れたいと思ひます。